



天文ニュース(No.177)

6月11日の部分日食 2002年5月8日発行

6月11日の朝、部分日食が日本全国で見えます。この日、太平洋上では、金環日食が見えます。日食が、日本で見えるのは1998年8月22日の部分日食以来4年ぶりです。

日食とは、新月のときに、太陽・月・地球の3つの天体が一直線に並び、太陽が月に隠される現象です。

太陽が月に完全にかくされる日食を皆既日食、太陽の縁が月のまわりにはみ出して見える日食を金環日食、太陽の一部が欠けた日食を部分日食といいます。

今回の日食は、明石・神戸地方では、下図のとおり6時42分に東空の地平線から21度の高さで日食がはじまり、7時36分に最大食分となり、太陽の直径の41%が欠ける部分日食です。

そして、8時36分には、45度の高さで日食が終わります。

日食のはじまりや終わりの時刻、欠ける割合は、土地によってちがいます。

各地の日食の状況は、つぎのとおりです。

都市名	日食の始まり	食の最大(最大食分)	日食の終わり
明石	6 : 42	7 : 36 (0.41)	8 : 36
札幌	7 : 01	7 : 55 (0.34)	8 : 52
青森	6 : 55	7 : 50 (0.37)	8 : 50
仙台	6 : 48	7 : 46 (0.42)	8 : 49
金沢	6 : 45	7 : 40 (0.40)	8 : 40
東京	6 : 42	7 : 41 (0.46)	8 : 45
名古屋	6 : 42	7 : 38 (0.43)	8 : 40
大阪	6 : 41	7 : 36 (0.42)	8 : 37
広島	6 : 42	7 : 34 (0.39)	8 : 32
福岡	6 : 41	7 : 32 (0.38)	8 : 28
那覇	6 : 26	7 : 20 (0.49)	8 : 20

食分とは、太陽の見かけの直径を1として、欠ける割合を小数で表したものです

次回、日本で見える日食は、2004年10月14日で、中国・四国地方から北で部分日食が見えます。

【日食を見るときにの注意点】

日食を観察するときは、目を痛めないように特に注意が必要です。

比較的安全な見方は、次のようにするとよいでしょう。

- (1) ガラスをローソクの火などでいぶしてススをつけ、それを通して見る。
- (2) 白黒フィルムを感光させて現像したもので見る。

(3) カメラ店などで日食グラスを購入して見る。

ただし、プラスチック製の下敷きや、感光したカラーフィルムは赤外線を通すので目を痛める危険があります。

最も安全な方法は、針穴写真機の原理を利用する方法で、厚手の紙に1mmぐらいの穴をあけ、太陽

の光をその穴を通して、適当に離れた白い紙の上に写すと、欠けた太陽の形を見ることができます。

また、望遠鏡では絶対に直接のぞかないこと。必ず太陽投影板に投影して見るようにしてください。

